

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●池江泰寿調教師がJRA通算900勝を達成

1月25日(日)の1回中山9日・第9レースとして行われた若竹賞ではブレナヴォンが1着となり、同馬を管理する池江泰寿調教師(栗東)は史上27人目・現役4人目となるJRA通算900勝(延べ6352頭目)を達成しました。

●大竹正博調教師がJRA通算400勝を達成

1月25日(日)の1回京都9日・第10レースとして行われた山城Sではラマセラシオンが1着となり、同馬を管理する大竹正博調教師(美浦)は現役41人目となるJRA通算400勝(延べ4115頭目)を達成しました。

●佐々木竹見カップにJRAから戸崎騎手と松山騎手が参加

2月3日(火)に川崎競馬場で行われる「第23回佐々木竹見カップジョッキーズグランプリ」に、戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)と松山弘平騎手(栗東・フリー)が参加することとなりました。同レースは中央・地方のリーディング上位騎手が腕を競うもので、JRAからは関東・関西それぞれの前年度勝利度数上位騎手から招待されることとなっています。

●戸崎圭太騎手が国際騎手招待競走に出場

現地時間2月13日(金)にサウジアラビアのキングアブドゥルアジーズ競馬場で行われる「インターナショナルジョッキーズチャレンジ」に、戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)が出場することとなりました。同シリーズには世界各国から14名の騎手が参加し、4戦の成績によって総合優勝が決まります。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●佐賀若駒賞は無敗馬ダバイシュクレ【各地の主要3歳重賞】

佐賀デビュー馬限定戦の佐賀若駒賞(1月4日、佐賀、1,750^円)は、3番手追走から4コーナーで内を通過して先頭に立った1番人気のダバイシュクレ(牡、父トランセンド)が3馬身差で楽勝、デビュー以来の連勝を4に伸ばしました。ニューイヤーズC(1月7日、浦和、1,500^円)は、後方から馬群を割って差を詰めた単勝109.6倍で10番人気のモコパンチ(牡、父ミスターメロディ)がゴール前で差し切り勝ち。新春ペガサスC(1月15日、名古屋、1,700^円)は、単勝元返しの圧倒的サポートを集めた北海道から愛知への移籍馬アストラビアンコ(牡、父バゴ)が逃げて後続を8馬身引き離し、ゴールドウィング賞に続いて重賞を連勝。兵庫クイーンセレクション(1月22日、姫路、1,400^円、牝馬)は、中団を進んだ8番人気の伏兵ジュンキートス(父ミスチヴィアスアレックス)が、直線に入って間もなく最内を突いて抜け出し重賞初制覇。花吹雪賞(1月25日、佐賀、1,800^円、牝馬)は、後ろから3頭目という位置から追い上げたサキドリトッケン(父トゥザワールド)が直線半ばで前を捉え、単勝1.1倍のサポートに応じて重賞5連勝を達成しています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●フォーエバーヤングがエクリプス賞を受賞

北米競馬の年度表彰であるエクリプス賞の受賞人馬が現地1月22日に発表され、日本のフォーエバーヤング(牡、2021年生、父リアルスティール、栗東・矢作芳人厩舎)が2025年の最優秀古馬ダート牡馬に輝きました。日本調教馬、また日本産馬の受賞は2021年の最優秀芝牝馬に選ばれたラヴズオンリーユー以来、2頭目のことです。フォーエバーヤングは昨年11月にアメリカでG1BCクラシック(ダート2,000^円)を日本調教馬、そして日本産馬としても初めて優勝したほか、同年2月にはサウジアラビアの世界最高賞金レースであるG1サウジカップ(ダ1,800^円)も制しました。なお、年度代表馬にはケンタッキーダービー、ベルモントS、トラヴァーズSとダート2,000^円のG1を3勝した、アメリカのソヴリンティ(牡、2022年生、父イントゥミスターフ、W.モット厩舎)が輝いています。

●カーインライジングが17連勝で香港の連勝記録に並ぶ

1月25日に香港のシャティン競馬場で行われたG1センチナリースプリントC(3歳上、芝1,200^円)は、Z.パートン騎手とのコンビで単勝1.05倍の圧倒的な1番人気に支持されたカーインライジング(騾5歳、父シャムエクスプレス、D.ヘイズ厩舎)が2番手追走から直線で楽に抜け出すと、最後はスピードを緩めながら、2着に1馬身1/4差をつけて優勝。2024年2月から続く連勝を17に伸ばして、サイレントウィットネスが2002年から2005年にかけてマークした香港調教馬による連勝記録に並びました。なお、カーインライジングはこのレース連覇で、G1は7勝目です。